

# 鍼灸で健やかに！

19

登美ヶ丘治療院長

野口 創



不妊治療の現場では、鍼灸（しんきゅう）治療の併用も積極的に行われている。

ドイツと中国の研究チームがまとめた報告によると、人工受精、体外受精の前後に、女性の身体をリラクセスさせるための鍼（はり）治療と子宮内の血流を改善する鍼治療を行うと、妊娠率が大幅に向上するという。同研究チームは、体外受精を受ける女性160人を2つのグループに分け、一方に体外受精の際、受精卵を子宮に戻す前後に鍼治療を実施した。

もう一方のグループに

は、鍼治療をせずに通常の体外受精を行った。その結果、鍼治療を受けたグループの妊娠率が42・5%に上り、通常治療の26・3%を大幅に上回った。

日本では、体外受精を5回以上行っても妊娠できなかった不妊症の女性114人に鍼灸治療を併用したところ、約40%にあたる49人が妊娠に至ったと、明治鍼灸大学の研究グループが、日本生殖医学界で報告している。

2003年11月、国際学会（北京）で、私は、臨床研究の立場から不妊症、月経不順、さらに多嚢（のう）胞卵巣症候群という難治性の婦人科疾患を患った女性を、鍼灸、漢方薬のみによる治療法で無事出産、という事例を発表している。

## 妊娠率が大幅に向上

妊治療は、欧米では既に多くの医療機関で取り入れられている。

を処方するが、各時期の基本的な治療方針は以下になる。

生理期⇨活血薬と理

気薬を併用して、子宮内の血液をきれいに排出させる。

低温期⇨補陰血薬に少量の補陽薬を併用して、子宮内膜を増殖し成熟卵胞を育てる。

排卵期⇨補精薬と活血薬を併用して、排卵をスムーズにする。

高温期⇨補陽薬に少量の補陰血薬を併用して、受精卵を子宮内に着床させ妊娠を継続して

いく。



パートナーも一緒に！

周期療法・鍼灸治療による不妊治療

西洋医学と中国医学の良い部分を合わせた「統合医療」による不

中国では、生理周期に合わせて

漢方薬を使い分け、妊娠確率を高める周期療法は、高い治療効果が認められている。周期療法は生理

周期（生理期、低温期、排卵期、高温期）に合わせて異なる漢方薬